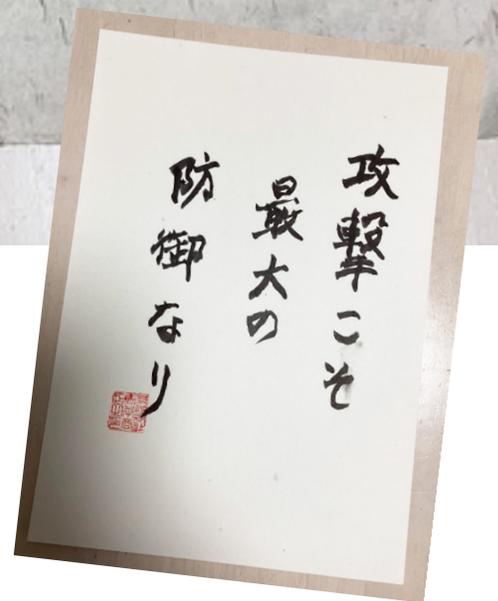
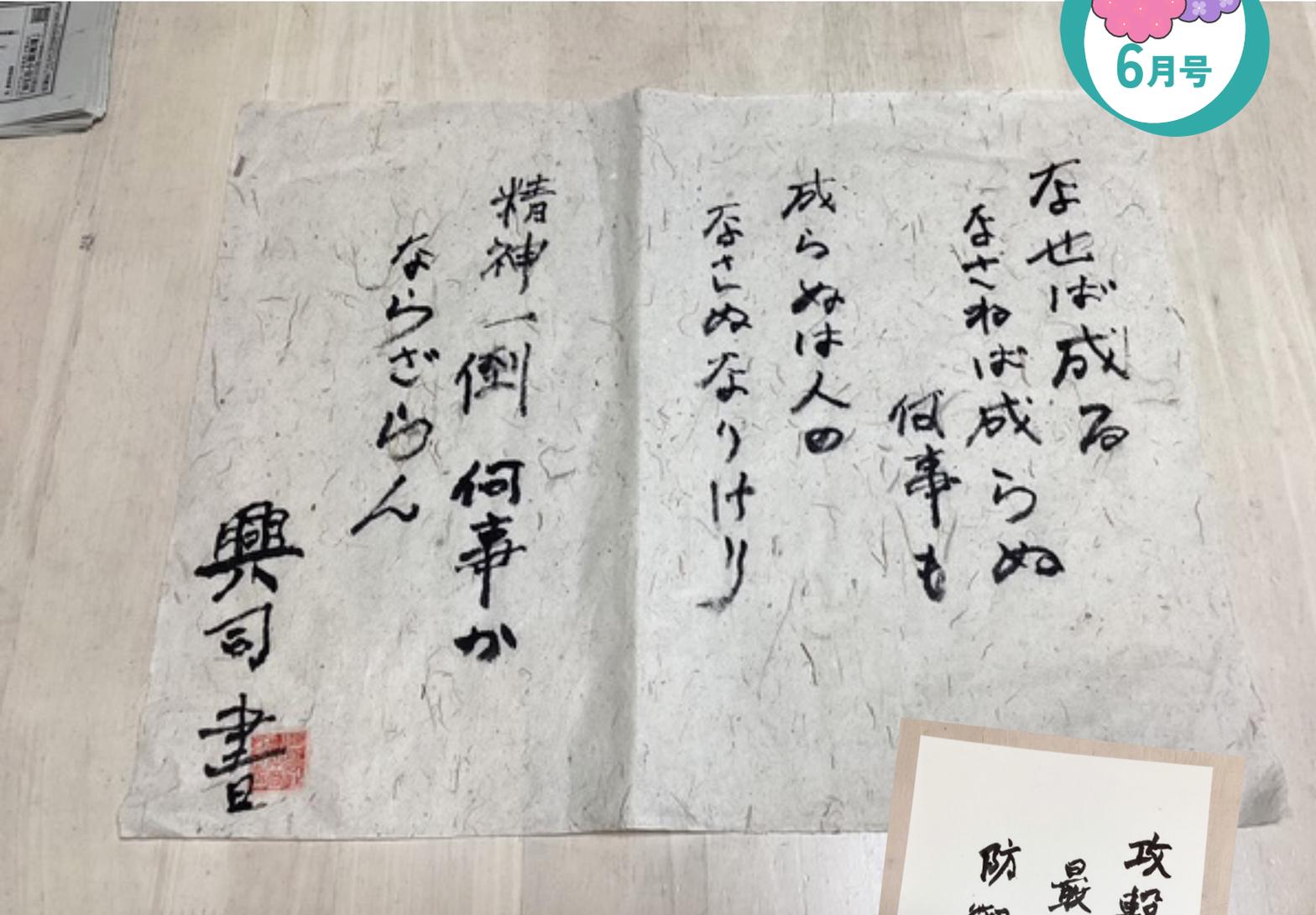
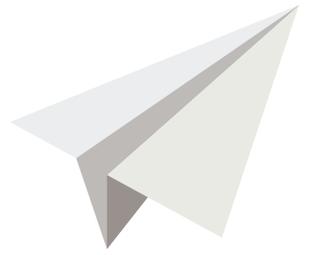


株式会社リニエR 通信

かみひこうき



『書道』 金子 興司 様

考える前に行動を

商売をしていた頃、取引先と上手くいかないと思っていた事も、行って相手方と話してみると、意外とそうでもない事が多かった。
「考える前に行動をする事で道は開ける」この教訓から、今回の作品に対してもまずはやってみる事が大切だと思った。



Linie

<https://linie-group.jp>



任意後見制度は判断能力がしっかりとあるうちに信頼できる代理人（任意後見人）を選び

将来の生活や財産管理に関する希望を具体的に伝えておく制度です。

母子支援事業 「リニエママ&ベビー」の実績報告

リニエママ&ベビー 甲斐ユウ子(助産師)

令和4年度より、株式会社リニエRでは鹿児島および東京の各事業所において、助産師・看護師・各療法士が連携し、以下の3つの母子支援サービスを提供しています。

- ・ 医療保険による母子の訪問
- ・ 自治体による支援事業
- ・ シューレによる自費事業
- ・ 医療保険での訪問看護

妊婦さんおよび産後約1年以内のお母さん(重症妊娠悪阻、切迫流・早産、精神疾患など)、赤ちゃん(早産、低出生体重、多胎、先天異常など)を対象としています。

利用者数は事業開始以降、増加傾向にあります。最近では、後期早産児(在胎週数34~36週)とそのご家族への支援の重要性が注目されています。後期早産の赤ちゃんは、哺乳力が弱く、体重増加や発達が緩やかである傾向があります。

在胎34週未満の赤ちゃんに比べて入院期間が短くなることが多く、十分な育児技術を習得する前に退院となるため、ご両親が育児への不安やストレスを抱えやすいことが指摘されています。



■母子支援事業の目的

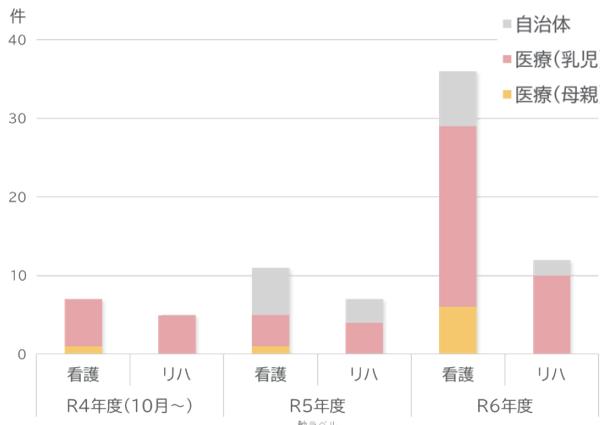
医療的ケアが必要な赤ちゃんだけでなく、少しでも早く・小さく生まれた赤ちゃんとそのご家族にも、きめ細やかな支援を届けたいと考えています。

■自費事業「シューレニ子玉川」での取り組み

毎週金曜日、「タッチケアクラス」と「理学療法士・助産師による個別相談」を開催しています。始まったばかりの試みですが、近隣のお母さんと赤ちゃんに、触れ合いの楽しさとその大切さを伝えていきたいと考えています。

最後に、『リニエママ&ベビー』のウェブサイトとInstagramも、ぜひご覧ください。

鹿児島県・東京の母子支援事業の実績 (東京はR6年~)



事業所ページ



Instagram



LINIE_AIRA_MAMAANDBABY

任意後見制度は判断能力がしつかりしてしまっているうちに信頼できる代理人(任意後見人)を選び

将来の生活や財産管理に関する希望を具体的に伝えておく制度です。

『よりよく生きるってなんだろう？』

精神科サービス推進室 扇 浩幸（作業療法士／公認心理師／相談支援専門員）



こんにちは。精神科サービス推進室の扇です。これまで「ウェルビーイング (Well-being)」をテーマに、6回にわたって記事をお届けしてきました。今回はそのまとめとして、要点を振り返ってみたいと思います。

ウェルビーイングとは、「よく在る」「よく居る」状態を指します。心や身体の健康だけでなく、人との関係性や社会とのつながりにも満たされた、持続的に良好な状態のことです。これは、従来の「病気でないこと＝健康」という考え方を超えた、より広い視点での健康観といえるでしょう。

【第1回】では、ウェルビーイングの基本的な考え方と、アメリカの心理学者セリグマンによる「PERMA理論」について紹介しました。ポジティブな感情、夢中になれること、良好な人間関係、人生の意味、達成感。これらを日常に取り入れることで、より良い生き方につながります。

【第2回】では、日本の幸福度の現状に触れました。2024年の世界幸福度ランキングで日本は51位。健康寿命などでは高評価を得ていますが、「選択の自由」や「寛容さ」が課題として挙げられました。個人だけでなく、社会や職場も変化していく必要があると考えます。

【第3回】では、私たち一人ひとりにできることを具体的に紹介しました。前野隆司教授の「4つの因子」——「やってみよう(挑戦)」「ありがとう(感謝)」「なんとかな

る(楽観)」「ありのままに(自己受容)」は、どれも身近で実践しやすいヒントです。心が疲れたときに思い出してほしい言葉たちです。

【第4回】では、職場などの人間関係について取り上げました。「お互いの“動機”を“同期”させる」ことにより、価値観の違いを越えて支え合える関係が生まれます。話すことだけでなく、働く理由や思いを共有することが、良い関係性づくりの鍵になります。

【第5回】と**【第6回】**では、マインドフルネスやセルフ・コンパッションについて紹介しました。「いま、ここ」に意識を向けることや、自分にやさしい言葉をかけることで、心に余裕が生まれ、自分との関係も変わっていきます。

この連載を通じて繰り返しお伝えしてきたのは、「ウェルビーイング」は特別なことではなく、日々のちょっとした心の向け方や、人との関わりの中にある、ということです。個人の内面の充実、周囲との関係性、そして社会のあり方。それらすべてがつながり合って、私たちの「よりよく生きる」を支えてくれます。

皆さまが、自分らしく、心地よく過ごせる毎日を築けるよう、これからも応援しています。

次回からは、仕事やキャリアについて考えてみたいと思います。

任意後見制度は判断能力がしっかりとあるうちに信頼できる代理人（任意後見人）を選び

将来の生活や財産管理に関する希望を具体的に伝えておく制度です。



最新のリハビリ機器「mediVRカグラ」

リニエデイサービス練馬高野台 所長 福井 那奈

リニエデイサービス練馬高野台では、関東で唯一（※2024年時点）、仮想現実（VR）を活用した最新のリハビリ機器「mediVRカグラ」を導入しています。



『mediVRカグラ』とは？

mediVRカグラは、医師の神経科学・行動科学の知見をもとに開発された、VRリハビリテーション用の医療機器です。専用ゴーグルを装着し、仮想空間に現れる的に向かって手を伸ばす「リーチング動作」を繰り返すことで、以下のような機能回復を目指します。

『mediVRカグラ』の導入事例

車いす使用から装着着用・杖なし歩行が可能になった方。上肢機能がBRS（Brunnstrom Recovery Stage）IIからIVへ改善した方といった効果が見られています。※リハビリ効果は、症状の程度・介入時間・頻度などにより異なります。



『mediVRカグラ』のご利用について

mediVRカグラのリハビリは、2つの方法でご利用いただけます。【介護保険内利用】理学療法士・作業療法士による小集団リハビリと併用できます。【自費利用】mediVRカグラに特化したリハビリをご希望の方におすすめです。興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。見学や体験も随時受付中です。



社会福祉士・行政書士が解説！「もしもに備える豆知識」

社会福祉士・行政書士 野澤 遼太

『任意後見契約』

将来、自分や親の判断能力が衰えたとき、財産管理や介護の手続きをどうするか、不安に感じたことはありませんか？そこで活躍するのが「任意後見契約」です。

任意後見契約って何？

任意後見制度は、判断能力がしっかりしているうちに信頼できる代理人（任意後見人）を選び、将来の生活や財産管理に関する希望を具体的に伝えておく制度です。

どんなことを お願いできる？

任意後見人は、以下のような支援を行います。
財産管理：不動産や預貯金の管理、税金や公共料金の支払い。
介護や生活面の支援：介護サービス提供機関との契約、施設入居手続き、入院手続きなど

どんな人におすすめ？

- ・配偶者もお子様もない一人暮らしの方
- ・お子様のいないご夫婦
- ・お子様はいるが離れて暮らす一人暮らしの方
- ・知的障がいや精神障がいのお子様がいらっしゃる方 など

まとめ

任意後見契約書は必ず公正証書で契約し、行政書士が契約書の作成や公証人との調整をサポートします。任意後見契約について詳しく知りたい方は、ぜひお近くの行政書士にご相談ください。



野澤遼太行政書士事務所

<https://nozawa-office.jp/>

☎ 042-428-5531

E-mail: info@nozawa-office.jp



Linie

東京都千代田区神田小川町1-8-8 VORT神田小川町 6F
tel.03-5577-5915 / fax.03-5577-5916
<https://linie-group.jp>



任意後見制度は判断能力がしっかりしているうちに信頼できる代理人（任意後見人）を選び

将来の生活や財産管理に関する希望を具体的に伝えておく制度です。